

# 平成 20 年度第 1 回知床世界自然遺産地域連絡会議

## 議事概要

平成 20 年 11 月 20 日（木）10:00～12:00

羅臼町商工会館 2 階会議室

1. 開会

2. 挨拶：釧路自然環境事務所長

3. 議事

議題 1：世界遺産委員会等からの勧告について

「資料 1 - 1：ユネスコ/IUCN 現地調査報告書」「資料 1 - 2：第 32 回世界遺産委員会作業文書」について環境省から、「資料 1 - 3：第 32 回世界遺産委員会概要（報告）」について林野庁から、「資料 1 - 4：ユネスコ/IUCN 現地調査報告書の勧告の対応について」と PSSA について環境省から説明

・質問・意見なし

議題 2：科学委員会の経過及び今後の予定について

環境省より資料について説明

（科学委員会）地元報告会については、地元住民に熱心に聞いていただき感謝したい。いくつかご意見もいただいた。遺産管理計画については、科学委員会からの意見は出し尽くしつつある。スケジュール通り計画を策定できるよう努力したい。

議題 3：平成 20 年度調査・事業計画について

環境省から資料について説明

（知床ガイド協議会）フィールドハウスについて、要望を挙げているが、あそこに駐在するのは、1 人と聞いており、大変少ないと思う。その点についてどう考えているのか。

（環境省）環境省、北海道、両町で考えていきたいと思っている。1 人では足りないというご意見も踏まえて検討していきたい。

（知床ガイド協議会）人員、開館時間、開館期間を延ばす可能性はあるということか。

（環境省）可能性はゼロではない。

（知床ガイド協議会）せっかく立派なものを作るのだし、フィールドハウスは非常に重要なものである。予算がないのであれば、民間の力を借りる選択肢もある。

（環境省）当方でも、あの場所に作る効果を最大限発揮できるような体制を作りたいという思いは同じであるので、努力していきたい。

（知床ガイド協議会）了解した。

#### 議題4：利用の適正化に係る検討状況について

環境省から説明

(斜里第一漁協) 漁業者として、利用の心得の「10. 漁業活動を妨げない」とあるが、具体的にどういった行動に気をつければよいかを書き込んでほしい。

(環境省) 漁協、漁業者の皆さんに意見を聞いて、パンフレットや遺産センターでの普及啓発に活かしていきたい。

#### 議題5：知床世界自然遺産地域管理計画の策定について

環境省から説明

(環境省) 年内か年明けには細かい修正についての意見を再度みなさんに聞く予定である。

(知床ガイド協議会) クジラやシャチを見るのが羅臼においてメジャーになってきている。今は観光客のサービスのためにクジラなどに急接近したり、追いかけていたりしていて、ルールが必要であると思う。シャチは海外では人を食べるために襲っているとも聞いている。事故が起こってからでは遅いので、研究の対象にクジラなども含めてもらいたい。まさに今、ホエールウォッチングが急増しているので、早めに対応すべきである。ホエールウォッチングが定着してからでは反発が強いことが予想される。現場に入る者からはなかなか言いにくい。また、ワシの餌付けについて、何年も前から良いことなのか悪いことなのか結論が出ていない。どう判断するつもりなのか。その点についてもモニタリングの対象としてほしい。

(科学委員会) クジラについては、非常に大きな問題。ハワイや小笠原には、協定、マニュアルがある。我々も情報提供などで協力できると思う。ただ、こういう方法で進める場合、ホエールウォッチングをする業者は皆、一つの協会に入っておかないとルールを徹底できない。協会の設立は、業者が行うべきものと思う。

(知床ガイド協議会) その協会に入らないと営業できないという状況にはない(=協会加盟は任意であり、ルールに強制力がないとの意味)。

(科学委員会) 日本ではなかなか難しいが、ハワイではうまくやっている。

(知床ガイド協議会) 国で決めてほしい。役場や環境省の職員がそうした船に乗っていて見ても指摘しないことが問題である。

(科学委員会) 資料収集などのお手伝いはしたい。

(環境省) 小笠原、御蔵島、慶良間など、ほとんどの地域において自主ルールがある。それぞれの地域の人が話し合っって長年の経験に基づいてルールを作っている。事例を集めて、ご紹介したい。

(知床ガイド協議会) エゾシカ対策は対応が遅くて森林が枯れてしまった。対応が遅れては意味がない。エゾシカの駆除にしても猟師が主体となって進めるべきなのに、素人が主体となって猟師に指示して実施しようとするからおかしなことになる。以上は例としてあげただけであるが、事故が起きてからでは遅い。

(環境省) 地元でどんな議論がなされているのかを教えてください。また、議論するのに適切な場はあるか。

(知床ガイド協議会) 観光業はお金を稼ぐためにあるものなので、このような会議(地域連絡会議)での議論はなかなか観光業には浸透しない。

(環境省) 利用適正化検討会議やエコツーリズム推進協議会の方が本件の議論の場として適切と考える。科学委員会からも協力してくれると知っている。利用適正化検討会議やエコツーリズム推進協議会で再度、知床ガイド協議会から提起してほしい。

(知床ガイド協議会) 今まで発言してきているが、なかなか上に伝わらないので、今回発言した。

(斜里第一漁協) シカWGについて、頭数についてはよく話題に出ているが、倒木については調査しているのか。森林の倒木が海からも確認できる。大雨などで川に倒木が流れ込み、海まで流れ出て被害を及ぼす。倒木は観光客に対して、見た目でも印象が悪いし、森林の荒廃で春先に露出した土壌が海に流れると困るので、エゾシカWG(森林保全)河川工作物、海域WGとの間での連携などを考えてほしい。

(森林管理局) 森林の被害をどう把握したらよいのかは現在検討中である。農業被害と違い、エゾシカはもともといる動物なので、どのレベルから被害と言えよいかは難しい。しかし、一部地域では、幹が全面的にはがされてしまっている林も斜里側にあり、そういうところでは幹に防護ネットを巻き付けたりしている。倒木については、河川のすぐ横にある倒木であれば大雨で流れることもあると思うが、普通、山の中にある倒木については、流れ出すとは考えにくい。森林の被害で表土が出てくれば、当然エロージョンが出てくるので、非常に問題であり、そこは防ぐつもり。環境省、北海道と協力して対応していきたい。生物多様性の観点等いろいろとあるので、被害を受けた倒木をすべて処理するというわけにはいかないと思うが、努力していきたい。具体的な提案があれば、いただきたい。

(斜里第一漁協) こちらが思っていたのとはずれている回答をいただいたように思う。観光客の目につく倒木を処理しないのは問題ではないかという指摘である。また、陸域を規制すると、海に人が行くようになるし、実際海の利用が増えている。そうした状況の中で海域の保全を進めるべきであり、WGでも検討してほしい。

(環境省) 行政はどうしてもきちんと対応していかないと、と考えてしまうため、対応が遅くなってしまいう傾向がある。我々も見落とすことも多いので、いろいろとご指摘いただきたい。陸と海を切り離してではなく、つなげて考えていかないといけないという考えについては、その通りと考えている。

#### 議題6：知床世界遺産シンボルマークの策定について

(環境省) 環境省から、シンボルマークを作ることを提案したい。本来であれば登録してすぐやるべきであったが、IUCN対応などで遅れてしまっていた。(以下、「資料6：

知床世界遺産シンボルマークの策定について」の説明)「民間利用に関する一定のルール」については、公募と並行してこれから調整していきたい。3月の地域連絡会議でルールについても議論していきたい。

(知床ガイド協議会) 予算はどのくらいかかるのか。

(環境省) 検討委員の旅費、審査料、チラシなどの経費がかかってくる。

(知床ガイド協議会) シンボルマークをシールに印刷して、売って、利益を保全に使ったりできると良い。

(環境省) 面白い提案と思う。検討したい。

(知床ガイド協議会) 公募にかかるお金の元をとり、さらに保全に使って行ければと思う。

(環境省) とりあえず策定を進めると言うことでよろしいか。3月まで、皆様のご意見を聞きながら進めていきたい。

#### 議題7：地域連絡会議等の今後の予定について

環境省から資料について説明

・質問・意見なし

#### 議題8：その他

(環境省) 遺産センター、フィールドハウスを工事中で、春のオープンを目指して整備しているところである。できるだけ効果を最大限に発揮できるようやっていきたい。建設は環境省だが、活用は様々な機関でやってほしいと考えている。